

第2章 2

地震 ②

副読本 10 - 13 ページ

ねん
年

くみ
組

ばん
番

なまえ
名前

3

今日の学習で、「わかったこと」「気づいたこと」「思ったこと」を書きましょう。

学級活動

ぼくと じしん

「あっ…… まただ。」

じしんが きました。しんど6の 大きな じしんて、
とても こわかったです。

ぼくは、子どもえんの 先生のおはなしを きいて
ぜんいんて 校ていにて にげて、まとまって いました。

なん日か まえに、ひなんくんれんて とつぜん
サイレンの 音と ほうそうが なって ほんとうに

じしんが おきたら かくれたり、にげたり

できるように れんしゅうを しました。ぼくは、

その ことを おもいだしました。ひなんくんれんの ときは、

ほんとうの じしんじゃ ないので、ふつうに ひなん

できました。ても、こんどの じしんは、こわくて

しんじょうかも しれない。まもって くれる ばしょは

どこだろう。どこかにはして にげるしか ない。

もっと つよくて 大きな じしんが きたら、こんどは

おうちも どうろも かいしゃとかも こわれて しまうかも

しれないよ。おじいちゃんとおばあちゃんとおとうさんと

おかあさんと おねえちゃんと いっしょに いる ときは、
こわがらずに がんばって いられるけれど、

もしも ぼく一人て いる ときに、

ぐらっ、パリン、ガチャガチャに なって しまったら

どう しよう。とっても こわかったです。

しんさいから 6か月、こんど 大きな じしんが きた
ときは、近くに おかあさんとか となりの おばちゃんとか

かならず いるから、きつと 大じょうぶだよ。その とき、

ぼくは だれかの ところに いるように しよう。

そう おもったら こわく なく なった。じしんが きても

うまく にげて、こえを だして げんきに して しようと

おもいます。

(作文宮城 60 号 特別編「あの子どもたち」より)



第2章
災害「こい」の